

投票率の伸びについて

青森県知事選挙の投票率が伸びたことについて、選管はHPなどで、努力の甲斐があったなどと素朴に喜んでおられるが、もしそうだと思うなら、いままでと異なるどういう作戦を展開されその作戦がどのように功を奏したかをキチンと分析し次につないでほしい。

私の分析はこうだ。

三村現職側が政策論争から逃げ、東奥日報がそのことを報じず、また、投票日当日同紙上で、投票をうながすキャンペーンをせず、この二人三脚による投票率を下げる動きに反して逆に伸びたのだから、前回や過去との単純な比較以上に大幅に伸びたという分析をしなければならないはず。それをどこもしないのは、その本当の要因が、県民の、意識の変化にあるからではないか。国政の戦争法案に反対する気持と3.11以降原発核燃への県民の不安が大きくなっていること、結果、投票所に足を運ばせ、その票が、新人で知名度が低い、との政策抜きのマスコミキャンペーンにもかかわらず、政策としてその二つの不安に対してはっきりと反対の意思表示をした大竹候補に集中し、同候補が13万もの票を獲得するという現象となったと思われるのである。

松田耕一郎